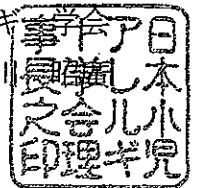


平成19年6月7日

厚生労働省 医政局総務課長
二川 一男 殿

日本小児アレルギー学会
理事長 森川 昭廣



標榜診療科の表記の見直しに関する緊急要望書

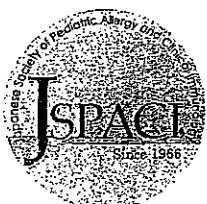
謹啓

初夏の候、貴職におかれましてはますますの御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、標榜診療科の標記見直しの件でございますが、報道されました5月21日の「医道審議会医道分科会診療科名標榜部会」における審議内容については、本学会と致しましては看過できない極めて大きな問題を含んでおり、本件に関してはさらなる慎重審議をされますようお願い申し上げます。

審議された案では、“臨床技術が確立し、診療科が定着している科を基本診療科とする、それによって自分の症状がどの科を受診するかの判断が容易になる”とされています。しかし、これからの社会を築き担っていてゆく小児に増加しているアレルギー疾患については、「アレルギー科」を「基本的な診療科名」から削除することは、むしろ多くの混乱を招き、患児・保護者にとっては以下の観点から大きなマイナスとなると憂慮しております。

1. 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギーなどのアレルギー疾患は小児では低年齢化と増加の一途を辿り、すでに多くの国民に馴染みのあるものとなっている。
2. とくにアトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギーの増加は、乳幼児期からの慢性疾患として深刻な問題となっている。



日本小児アレルギー学会

理事長 森川 昭廣

事務局 群馬大学大学院医学系研究科小児生体防御学分野内

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

Phone.027-220-8479 / Fax.027-220-8474

E-mail : jaspaci@ped.dept.med.gunma-u.ac.jp 7

Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

President Akihiro Morikawa

Office : Department of Pediatrics and Developmental Medicine

Gunma University Graduate School of Medicine

3-39-22 Showa-machi, Maebashi, Gunma 371-8511 JAPAN

Phone.+81-27-220-8479 / Fax.+81-27-220-8474

E-mail : jaspaci@ped.dept.med.gunma-u.ac.jp

3. 小児アレルギー疾患は、気管支喘息、アレルギー性鼻炎（花粉症）、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、薬剤アレルギーなど多臓器にわたり、一人の患者が数種の疾患を併発する率が高い。
4. これらのアレルギー疾患は、しばしば乳幼児期から長期の治療が必要となる。
5. 疾患は乳幼児から多発し、軽快、増悪を繰り返し、適切な治療が施されないと医療費のみならず学校の欠席等での社会的損失も大きい。また、児のアレルギー性疾患により保護者のQOLの障害や経済的損失も大きい。
6. 今回の案では、これらアレルギー疾患児は、一旦総合科または小児科を受診した後に、疾患別に小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科等を受診する方向性を示唆しているが、年齢的特長と疾患の専門性の両面から望ましい方策とは考えられない。
7. なぜならば、この方策によれば、患児はもとより、仕事をしながら子育てをしている保護者にとって多大な時間と労力の損失、出費の増加となることが懸念される。
8. アレルギー科を受診することにより、その問題、弊害が軽減し、重複する医療費を削減し、患者・国民にとっての利益は大きい。
9. 日本小児アレルギー学会は日本小児科学会、日本アレルギー学会、日本アレルギー協会などと協力して、アレルギー専門医、ならびに一般医のアレルギー診療の質の向上のため、診断・治療ガイドラインの作成、またこれを広く知らしめ啓蒙するための講習会・研究会などの事業を拡大・展開している。さらには、患者・家族に対する啓発活動も強化している。
10. 今回の（ ）書きの付記では自由標榜制が有する欠点をさらに拡大し、患者・国民が医師・医療機関の選択に迷うことは自明である。
11. 前述のごとく「アレルギー科」という診療科名は既に広く定着した分かりやすい診療科となっており、「総合科」新設と抱き合せでする問題とは本質的に異なる。

以上のことから、診療科名の変更については慎重な影響調査と十二分の検討時間を設けて行なう極めて重要な政令事項と考えられます。

社会の宝物である子ども達がアレルギー疾患の苦痛から逃れ、健康を早期に回復するために更なる慎重な御議論を戴くようお願い申し上げます。